

蝶の羽化は自由自在

蝶の羽化の様子を子供たちに見せて、生命の神秘と感動を教えてあげようと、ある大学の先生が苦心の末、モンシロチョウを思い通りの時間に羽化させることに、世界ではじめて成功しました。1963年のことです。

その後、アゲハ、キアゲハなどでも次々に成功し、30種類の蝶、蛾について実験を重ね、1987年に、オナガアゲハ、ヒメアカタテハなど11種類の研究成果をまとめて研究発表をしています。

内容の一部を紹介すると、たとえばモンシロチョウでは、羽化の前に、蛹の表面が第四腹節まで空隙化したときに冷蔵し、三日後30℃に暖めれば、(37±7)分(±7分の誤差)で羽化するそうです。

この先生は、研究の傍ら、冷蔵用魔法瓶に蛹を入れて、各地の学校の先生に羽化の方法を教えに回り、また、実際に授業中に羽化を見せたりしています。目の前で蛹の殻が割れ、蝶が出てくると、小学生でも大学生でも歓声をあげるといいます。

さて、予定通りの時刻に、生徒たち皆のしている前で蝶が羽化していくさまは、感動的だといいます。私自身は、昆虫の羽化の感動は現場に居合わせた人たちの幸運につきると思うのですが、感動を皆と共有するのは「よし」としても、この話、皆さんはどうかおかしいのではないかと思います。

蝶の羽化する日、羽化する場所、羽化する時間帯までコントロールできるようになったこと自体は、研究の成果として大いに評価しますが、それを敷衍して学校の授業にまで延長していくやり方には疑問を感じます。

勿論、授業の最初に「自然の中で、蝶の羽化を見ようと思ったら、大変な努力が必要だよ」と前置きはあると思いますが、操作された自然を教室に持ち込んで、羽化するところを子供たちが見て、「ああ蝶というのは我々の好きな日に、好きな場所で、好きな時間帯に羽化するものだ」と思いこんでしまい、「暑い日に外に出てまで、蝶を探す必要はないよ、大人がちゃんと用意してくれるよ」となったら、感動を与えることは出来ませんが、授業としては失敗に終わったことになります。

最近の大人たちは、先回りをして、子供たちにもものを与えずてはいないでしょうか。安易な授業の姿勢は、むしろ自然を傍観する、自然に無関心な子供たちを育てていくのではないのでしょうか。

見たいものを、見たい時間に見ることが出来るということ自体は素敵なことではありますが、それを授業に持ち込むというのはどうでしょう。子供の喜ぶ顔見たさに、子供

たちの将来にどんな影響を与えるかも深く考えないで、自然を教室に持ち込んでいます。

自然の中で起こる出来事は、こちらから出向いていくものです。決して、教室まで持ち込むものではありません。美しい瞬間に立ち会いたいと思ったら、幼虫時代の醜いものにも時間をかけなければなりません。

それとも、皆さんは「そう固いことを言わないで、いいことじゃないですか」で済ませてしまいますか。

「このような善意は、必ずしも子供たちの好ましい自然観を育成しない場合もある」ということを少しは心配してもいいのではないのでしょうか。ビデオ・オン・ダイヤモンドのような世界は、決して子供たちに良い影響を与えないように思うのですが。